

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 7月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172001000		
法人名	有限会社 優春		
事業所名	グループホーム 竹とんぼ		
所在地	小樽市長橋5丁目14番8号 (電話) 0134-21-4500		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年7月13日	評価確定日	平成21年7月30日

【情報提供票より】(平成21年 7月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 12.6人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 25,000 円 暖房費(10～4月) 5,000円
敷金	有( 円)・(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

### (4) 利用者の概要( 6月 20日現在 )

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三ツ山病院、石橋病院、板谷内科、石井歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、利用者主体の生活に重点を置き、機能回復に取り組むケアサービスを心がけています。このため、食事準備や後片付け、菜園の野菜作りなど、種々の役割に利用者が積極的に取り組み、これを補佐し見守る職員とのスムーズな連携で、ホーム内は明るく和やかな雰囲気になっています。法人運営の既設ホーム等を研究して新設した建物で、アイランドキッチンで使いやすく、見通しの良い食堂兼居間などの共有スペースと広いクローゼットや天井パネルヒーター設置の居室など、利用者にとって安全で住みやすいホームです。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での課題である運営理念と地域との関わり、自己評価の職員全員による作成、運営推進会議への包括支援センター職員参加などは改善されており、諸課題の解決に積極的に取り組んでいます。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員全員がミーティングで数項目毎に検討し、管理者が整理してまとめています。評価結果については課題項目の具体的な改善策を全員で協議し、利用者へのケアサービスに反映させるよう努力しています。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、町内会や包括支援センター関係者をメンバーとして定期的に開催し、ホームの状況報告や災害対策などへの協力要請等と意見交換が行なわれています。会議における意見等はホームのミーティングで検討し、運営に反映させるように努めています。参加メンバーがやや少ないため、教育関係者等を含めたメンバー増員が今後の課題となっています。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームは苦情相談窓口等の苦情処理体制を整備し、職員は家族からの意見や苦情等をできるだけ把握するよう努めています。苦情等有る時は、申し送り、全体会議、ユニット会議で話し合い、具体的改善策を立てながらケアサービスに反映させています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会行事のゴミ拾いや地区会館の清掃等に利用者と職員と一緒に協力しています。ホーム行事の夏祭りや文化祭には周辺住民や近隣のグループホーム、小規模多機能ホームの人たちも参加し、ボランティアによる慰問も受け入れるなど、地域との交流が進んでいます。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームは、パンフレットの中に地域とのコミュニケーションを大事にする方針を明記していましたが、前回評価の結果を受け、理念の中に地域との関わりを追加しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、全体会議やユニットミーティングにおいてホーム理念や運営方針を具体的に説明し、職員の共有としながら、理念に基づくケアサービスのあり方を確認しています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの利用者と職員が一緒に町内会のゴミ拾いや地区会館の清掃に参加し、協力しています。また、ホーム行事の夏祭りや文化祭には周辺住民が参加して楽しんでいただくなど、地域との交流が進められています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員に評価の意義を説明しており、自己評価作成に際しては、評価項目を分担しながら、全員が参加して協議しています。評価結果による課題は、随時、ミーティング等で話し合いながら改善に取り組んでいます。		

小樽市 グループホーム 竹とんぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、新たに包括支援センター関係者を加えて年6回実施しています。会議ではホーム運営状況などの報告と災害訓練などへの協力依頼、ホームに対する意見や要望などを話し合い、利用者へのサービスに反映させるよう努めています。	○	運営推進会議は積極的に開催していますが、さらに教育関係者等メンバーの増員、参加者が関心を持つような進め方の検討、詳細な会議録作成等を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は小樽市グループホーム連絡協議会で行政関係者と接触すると共に、市の担当者を頻りに訪問して相談や情報交換を行なうなど、行政との連携に取り組んでいます。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームを訪問した際に、職員の方から積極的に話しかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えています。さらに、毎月「グループホーム竹とんぼ通信」と利用者一人ひとりに対する「お便り」を郵送して報告しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは苦情相談窓口や意見箱の設置など苦情処理体制を整備し、職員からも苦情等を積極的に聴くよう努力しています。苦情等がある時は、ミーティングで話し合い、サービスに反映させるようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一部職員について運営法人の他ホームへの異動が有りますが、当ホームの近くに位置しているため、職員が利用者と共に散歩の際に寄ってくれたり、こちらから訪れたりして利用者の不安やダメージが起らないよう配慮しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内では毎月、職員研修が実施されており、外部研修にも、原則として職員は年1回は参加するよう努めています。研修受講結果は復命書とミーティングで報告し、職員全員の共有としながら、ケアサービスのレベルアップに取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて他ホームとの情報交換を行なっています。また、近くにある他ホームと地域行事へ一緒に参加したり、当ホームのイベントを訪れるなどの交流はあります。	○	他ホームとの交流は一部に限られているため、多くのホームと情報交換や相互訪問、共同の研修会や行事を開催するなど、同業者との交流を深めて、利用者への質的サービスの向上に活かされることを期待します。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家族と十分な打合せを行ない、利用者にも出来るだけホームを見学していただくようにしています。実情としては、急な入居で利用者が十分に理解していない場合も多いようですが、職員は時間をかけて利用者がホームの雰囲気になれるよう努力しています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームは利用者を中心とした日常生活支援を心がけており、食事準備や畑作業など、利用者の希望に合わせて職員が補佐しています。また、利用者から調理方法など教えていただき、お互いに支え合う関係を大事にしています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との日常生活の中で思いや意向を把握するよう努めていますが、困難な場合は少人数による外出機会が多いため、その際にゆっくりと話し合いながら、利用者の気持ちを汲み取るようにしています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族からの要望を聞き、医療機関からの情報収集も行ないながらセンター方式を採用して作成しています。作成した介護計画はミーティング等を通じて職員全員の共有とし、家族に説明して同意をいただいています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の定期見直しは、3ヵ月毎に実施していますが、申し送り事項や毎月の全体会議やユニット会議においても利用者一人ひとりの状況を検討し、必要に応じて随時見直しを行なっています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム夏祭りや文化祭などのイベント開催、食事ツアーや温泉旅行などの遠出支援、かかりつけ医への付き添い、ボランティアの慰問受け入れなど、利用者や家族に喜ばれる種々の支援を行なっています。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の内科医により2週間毎に往診があり、整形外科、歯科も希望者には往診があります。かかりつけ医の受診希望の利用者には、原則として管理者が付き添い、ホームの車で送迎しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、利用者の重度化や終末期にも対応の予定です。利用者の入居契約時に家族へ重度化等への対応策を説明し、職員もその内容を共有しています。重度化や終末期の指針はまだ有りませんが、今後検討し、作成の予定です。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	家族の面会簿は一覧表記入式から個票様式に変更し、介護計画等各種記録類も他人の目に触れぬよう管理されています。職員の利用者への言葉かけや対応も、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりの個性を大切に、その日に何をしたいかを把握し、それぞれの体調に配慮しながら、意向や希望を優先して支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは、利用者が中心となって職員と一緒に取り組んでいます。食事メニューも1ヵ月単位で作成していますが、利用者の好みを聞きながら随時変更しています。食事中は利用者と職員と一緒に同じ食事を取りながら楽しく過ごしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴は原則週2回以上とし、ゆっくり休めるよう夕食後の時間帯（6時過ぎから8時頃まで）に実施しています。夏期には利用者の状況によってシャワーによる支援も行なっています。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	当ホームの特徴として、食事関連や畑作業など利用者が中心となって積極的に役割を持っています。また、日常的に散歩、カラオケ、ゲームなど利用者自身で時間を上手に使いながら過ごしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、ホームの近くに所有している広い畑や近所のグループホームに散歩がてら訪問し、元気な人はスーパーへも買物に出かけています。また、毎月、車両で花見や温泉宿泊旅行を実施し喜ばれています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は正面玄関に施錠が無く、内側にドア開閉の押しボタンがありますが、利用者はこの利用方法を理解しています。ユニット入口は施錠もセンサーも有りませんが内部から見通しが良く問題はありません。		

小樽市 グループホーム 竹とんぼ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力をいただいて避難訓練を実施し、救命救急訓練も職員交代で参加しています。また、運営推進会議で避難訓練への協力をお願いし、緊急時の連絡網も整備されています。	○	避難訓練の実施や地域への協力依頼など、積極的に取り組んでいることは評価できます。今後は、地域住民の方々に見学、お手伝いなど、何らかの形でホームの避難訓練に参加していただけることを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が1ヵ月の食事メニューを作成し、協力医療機関の管理栄養士に栄養バランスやカロリーの指導を受けています。利用者の食事量や水分摂取量も毎日チェックして、一人ひとりの生活支援に十分留意しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂はゆったりとしたスペースがあり、アイランドキッチン方式で、職員は調理作業しながらユニット全体を確認できる構造です。浴室、トイレ、洗面所も余裕があり清潔さが保たれ、居間の壁面には季節の植物や利用者手作りの飾りがあり、利用者は家庭的な雰囲気の中で過ごしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は12.2㎡のスペースで余裕があり、広い間口のクローゼットによって居室内が整理しやすくなっています。さらに、遠赤外線天井パネルヒーターが設置され、安全で清潔な環境の中で利用者は居心地良く暮らしています。		

※  は、重点項目。